



(特非) APLA

東ティモール・エルメラ県における 地域住民参加型の植樹活動・ 水源保全活動実施と持続的モデルケースの構築

一般助成
3年目
実践

環境キャンプに参加し、
アクションプランを
作成した子どもの数 **150人**

日本語字幕版動画の
再生回数 **260回**

活動の全体目標に
対する達成度 **85%**

課題

森林伐採や気候変動によって山の保水機能の低下に起因し、水問題が深刻化している活動地の現状。

目標

上記のような現状に対して、地域住民による主体的な植樹・水源保全の取組みが進むこと。また、そうした取組みの映像記録を活用して、国内外の人々に広く活動の意義が知られること。

活動内容

●最終年度となる2016年度には、子どもを対象にした環境キャンプを開催し、対象地域から約150人の小学生が地域の環境保全活動・環境保全型農業の意義や具体的方法論を、実践を通じて学ぶ機会をつくった。●対象地域でコーヒーだけに頼らない多産目栽培の小規模実験農場の試験運営をサポート、フォローアップしてきた。●住民参加型の水源保全活動の記録動画(約15分)の日本語字幕版を作成し、ウェブ上で公開した。



コーヒーと果樹の
多産目栽培農場が始動

達成できなかったこと

東ティモール国内の関連組織や関係省庁との継続した対話の場の構築、及び政策提言窓口の開設。原因としては、期間中の現地の政権交代後の関係者へのアプローチ力不足。

今後の展望

地域全体への波及効果を高めるために、キャンプに参加した小学校4校で環境教育のモデル作りに取り組む。

成果と工夫した ポイント



成果

活動対象4地域で多産目栽培の小規模実験農場の運営が開始された。環境キャンプに参加した小学生の約50%がアクションプランに基づいた環境保全活動を継続している。行政や他地域からの視察訪問が合計5件あった。

工夫

外部との新たな関係性構築のために地元の小学校を巻き込む形で活動を展開したこと。